

人との出会いや縁は、時に自身の運命を大きく変える力を持っているといえるでしょう。

身近な存在である両親、夫や妻、恩師、上司、友人が発した言葉は、困難に直面している時、自分の背中を大きく後押ししてくれるきっかけとなり得ます。

高校時代、バスケットボール部に所属していたSさん。最後の大会となった試合に、Sさんは出場しました。ゲームは白熱しましたが、試合終了間際にSさんが放ったシュートはゴールからはずれ、チームは二点差で敗れてしまいました。

ロッカールームに戻ったSさんが号泣していると、コーチが近づいてきて、肩をポンと叩きました。そして、「Sはよくやった。お前は誰よりも三年間頑張ってきたじゃないか。これまでの努力は決して、お前を裏切らないぞ」と励ましてくれたのです。

卒業を間近に控え、送別会が行なわれた際、コーチが部員一人ひとりに記念品として、バスケットボールのミニチュアを手渡してくれました。Sさんがその記念品を手にとると、そこには「リバウンドこそ勝利への道」とコーチ直筆のメッセージが書かれていたのです。

《華のあるゴールを決めるよりも、地味なプレーが求められるリバウンドを磨きなさい。そして周囲を支える縁の下の力持ちになりなさい。それが成功への道》
リバウンドを取る技術は、Sさんがコーチから三年間、



6月のテーマ | 感謝という妙薬

恩師の言葉

ほかの誰よりも徹底的に叩き込まれた基本的なプレイです。その技術を磨くことによつて、チームを勝利に導くことを託されていたことに、その時気づいたのです。

大学生になったSさんは、数年ぶりにコーチと再会しました。Sさんは「私に送ったメッセージを覚えていますか」と尋ねました。するとコーチは「はつきり覚えているよ。何故ならそのメッセージは、私が一番好きな言葉だからだよ」と答えたのです。そして「S、リバウンドはバスケットだけではないぞ。むしろ君のこれからの人生で最も求められるプレイがリバウンドかも知れないぞ」と、語気を強めたのです。

恩師の言葉を聞き、当時進路に悩んでいたSさんは奮い立ちました。そして自分の夢であった教員を目指す決心をしたのです。以後、恩師の教え通り、地道に勉学に励み、教員となったのです。今では悩んでいる生徒たちをサポートする、縁の下の力持ちの役割を担っています。

Sさんは、コーチから贈られた言葉に心から感謝し、常に前向きな人生を送っています。

人生のターニングポイントともいえるべき場面に直面した時、自分の力だけではどうしても解決できないことがあります。その時こそ、かつて心に残った言葉や、自分を奮い立たせる言葉などを思い返してみるのも、人生のハードルを越える一助となるかもしれません。その言葉が、困難に直面している現状を打開するきっかけとなる可能性を秘めているからです。